

沼津市文化財調査報告書 第116集

錢神第Ⅱ遺跡  
茗荷沢遺跡

2017

沼津市教育委員会



## 卷頭カラー図版



銭神第II遺跡 全景



銭神第II遺跡 繩文時代の調査状況



## 例　　言

1. 本書は沼津市井出字錢神 1391-2 他に所在する錢神第Ⅱ遺跡と、同市井出字掘込 891-1 他に所在する若荷沢遺跡の発掘調査報告書である。

2. 錢神第Ⅱ遺跡と若荷沢遺跡の発掘調査は、新東名高速道路駿河湾沼津スマートインターチェンジ設置事業に伴うアクセス道路整備として、市道の拡幅および付け替えを行う工事に伴い実施された。当該地は、新東名高速道路建設に伴う発掘調査で確認された錢神遺跡と若荷沢遺跡に隣接していることから埋蔵文化財包蔵地の可能性が高いと判断された。そこで遺跡の範囲を確認する調査を実施したところ、錢神遺跡に近接する調査区が新規の埋蔵文化財包蔵地であることが判明したため、「錢神第Ⅱ遺跡」として登録されたものである。若荷沢遺跡については、遺構や遺物の分布範囲が判明していないことから、遺跡としての範囲変更は見送っている。

3. 本調査は平成 27 年度に試掘調査を行い、その一部を拡張して実施した。現地調査の期間は、平成 27 年 11 月 16 日～平成 28 年 3 月 18 日である。

4. 発掘調査の関係者は以下のとおりである。

事業主体者	沼津市	市長	栗原 裕康
調査主体者	沼津市教育委員会	教育長	工藤 達朗
		教育次長	井原 正利
事業担当者	沼津市教育委員会	文化振興課	文化振興課長　　勝又 恵三 課長補佐　　山内 良太
調査担当者		主幹兼文化財調査係長	池谷 信之
		指導主事	前嶋 秀張

5. 整理事業は平成 28 年度に実施し、本報告書を刊行した。主要な遺物については、株式会社ラングへの業務委託によって実測図を作成し、その他の遺物については、整理補助員が実測を行った。また現場で取得したデジタルデータについては、株式会社シン技術コンサルへの業務委託によって編集を行った。

整理事業の関係者は以下のとおりである。

事業主体者	沼津市	市長	栗原 裕康	大沼 明穂 (H28.11～)
	沼津市教育委員会	教育長	服部 裕美子	
		教育次長	井原 正利	
事業担当者	沼津市教育委員会	文化振興課	文化振興課長　　中島 康司 課長補佐　　山内 良太 文化財調査係長　鶴田 晴徳 指導主事　　前嶋 秀張	臨時嘱託　　北 佳奈子
整理担当者				

6. 整理作業の実務は、前嶋・北が担当し、沼津市文化財センターにて行った。報告書本文は前嶋が執筆し、編集は前嶋・北が行った。なお、事務処理は事務補助員の土屋周子が担当した。
7. 本書に係わる錢神第II遺跡と若荷沢遺跡の発掘調査資料および出土遺物は、沼津市教育委員会事務局文化振興課文化財調査係（沼津市文化財センター 〒410-0873 沼津市大瀬詰46-1 Tel 055-952-0844）で保管している。

# 凡　例

1. 遺構実測図中のレベル高は、標高を示す。
2. 土層および土器胎土の色調については、『新版標準土色帳』に基づいて記載している。
3. 遺物実測図の挿図縮尺は次のとおりである。  
土器：2/5、石器：4/5（剥片石器）・1/2（石核石器）、1/4（敲石・磨石・台石）
4. 本書で用いる石器、礫、層位の略語は、以下のとおりである。また、石器の実測図には、図版番号に統一して「遺物番号・遺構名・石材・出土層位」の順に遺物のデータを表記している。

## 石材略語

岩石名	岩石英名	略語	ディサイト	Dacite	Da	赤玉石	Red Jasper	RJa
黒曜石	Obsidian	Ob	安山岩	Andesite	An	黄玉石	Yellow Jasper	YJa
ガラス質黒色安山岩	Glassy Black Andesite	GBA	玄武岩	Basalt	Ba	石英	Quartz	Qt
チャート	Chert	Ch	石英閃緑岩	Quartz Diorite	QD	水晶	Rock Crystal	RC
赤色チャート	Red Chert	RCh	凝灰岩	Tuff	Tu	メノウ	Agate	Ag
頁岩	Shale	Sh	緑色凝灰岩	Green Tuff	GT	玉髓	Chalcedony	Cha
珪質頁岩	Siliceous Shale	SSh	粘板岩	Slate	Sl	花崗岩	Granite	Gr
ホルンフェルス	Hornfels	Hor	泥岩	Mudstone	Mu	花崗閃綠岩	Granodiorite	Gd
F.ホルンフェルス	F.Hornfels	F.H	砂岩	Sand Stone	SS	滑石	Talc	Ta
流紋岩	Rhyolite	Rhy	礫岩	Conglomerate	Co	蛇紋岩	Serpentine	Se
珪質岩	Siliceous Rocks	SR	珪岩	Quartzite	Qu	輝石	Pumice	Pu
角閃石岩	Hornblendite	Ho	綠泥片岩	Chlorite Schist	CS			

F.ホルンフェルスは、富士川ホルンフェルスの略

## 石器 器種名略語

石器名	石器英名	略語	石錐	Stone awl	Sa	碎片	Chip	Ch
ナイフ形石器	Backed blade	Bb	抉入石器	Notche	No	石核	Core	Co
尖頭器	Point	Po	石刃	Blade	Bl	細石刃石核	Microblade core	Mc
挫器	End scraper	Es	加工痕のある削片	Retouched flake	Rf	磨石	Polishing stone	Ps
削器	Side scraper	Ss	使用痕のある削片	Utilized flake	Uf	台石	Anvil stone	As
彫器	Burin	Bu	細石刃	Microblade	Mb			
楔形石器	Piece esquillee	Pe	削片	Flake	Fl			

山本忠尚 2001『和英对照 日本考古学用語辞典』東京美術 参照

## 層位略語

新期スコリア層	新SC	栗色土層	K U	富士黒土層	F B	漸移層	Z N
休場層上位	YL U	休場層中位	YL M	休場層下位	YL L	休場層下部黒色帶	B B O
第Ⅰスコリア層	SC I	第Ⅰ黒色帶	B B I	ニセローム層	N L	第Ⅱ黒色帶	B B II
第Ⅱスコリア層	SC II	第Ⅲ黒色帶	B B III	第Ⅲスコリア層スコリア1	SC III s 1	第Ⅲスコリア層黒色第1	SC III b 1
第Ⅲスコリア層スコリア5	SC III s 5	第Ⅳ黒色帶	B B IV	第Ⅶ黒色帶	B B VII		

ニセローム層は、始良丹沢火山灰（AT）の火山ガラスを含む



5. 石器の分類については、『図録 石器入門辞典 先土器』1991 加藤晋平・鶴丸俊明と、『旧石器考古学事典』〈増補改訂〉2001 旧石器文化談話会編、『図録 石器の基礎知識III 縄文』1981 鈴木道之助などの分類を基準にして行った。

**石鐵**：矢柄の先端に装着された小形の剥片石器。

**磨石**：円盤の表面に明瞭な磨痕を持つ石器。

**敲石**：円盤または亜円盤を用い、対象物を敲打もしくは粉碎するための石器。

**台石**：石器製作や植物質の加工に利用したと考えられる比較的大形の礫塊。

**使用痕のある剥片**：使用によって生じたと考えられる、刃こぼれ状の微細剥離が残る石器。

**剥片**：剥片剥離または石器製作の過程で石核から剥離された、重さが0.1gより重い石片。

**碎片**：剥片剥離または石器製作の過程で生じた、重さが0.1g以下の微細な石片。

**石核**：石器の素材となる剥片を剥離した石塊。

**細石刃**：長さ1cm～数cm、幅数mm～1cm、厚さ1mm～2mm程度の極小の石刃。

# 目 次

巻頭カラー図版

例 言

凡 例

第Ⅰ章 調査経過 ..... 1

　　第1節 調査に至る経緯 ..... 3

　　第2節 発掘調査事業・整理事業の経過 ..... 3

第Ⅱ章 遺跡の環境 ..... 7

　　第1節 遺跡の位置と地理的環境 ..... 9

　　第2節 周辺遺跡と歴史的環境 ..... 11

　　第3節 遺跡の土層 ..... 15

第Ⅲ章 銭神第Ⅱ遺跡の調査 ..... 17

　　第1節 銭神第Ⅱ遺跡の概要 ..... 19

　　第2節 旧石器時代の遺構と遺物 ..... 22

　　第3節 縄文時代の遺構と遺物 ..... 25

第Ⅳ章 茗荷沢遺跡の調査 ..... 29

　　第1節 茅荷沢遺跡の概要 ..... 31

第Ⅴ章 調査成果 ..... 33

　　第1節 銭神第Ⅱ遺跡の性格 ..... 35

写真図版

報告書抄録

## 挿 図 目 次

第1図	駿河湾沼津スマートインターチェンジ位置図	4
第2図	グリッド設定図	6
第3図	遺跡位置図	10
第4図	周辺主要遺跡分布図	12
第5図	調査区位置と周辺地形	14
第6図	愛鷹ローム層基本層序柱状図	16
第7図	銭神第II遺跡の土層柱状図と文化層	19
第8図	銭神第II遺跡標準土層図	20
第9図	銭神第II遺跡土層セクション図	21
第10図	銭神第II遺跡第I文化層遺物分布図	22
第11図	銭神第II遺跡第I文化層石器実測図	23
第12図	銭神第II遺跡縄文時代遺構分布図	24
第13図	銭神第II遺跡縄文時代遺物分布図	25
第14図	銭神第II遺跡縄文時代集石実測図	26
第15図	銭神第II遺跡縄文時代遺物実測図	27
第16図	若荷沢遺跡の土層柱状図	31
第17図	若荷沢遺跡調査区全体図	31
第18図	若荷沢遺跡試掘坑土層断面図	32
第19図	銭神第II遺跡全体図	35

## 挿 表 目 次

第1表	周辺主要遺跡一覧表	13
第2表	銭神第II遺跡第I文化層遺物観察表	24
第3表	銭神第II遺跡縄文時代遺物観察表	28

## 写 真 図 版 目 次

巻頭カラー図版　銭神第II遺跡全景・銭神第II遺跡縄文時代の調査状況

PL1	銭神第II遺跡調査区全景（西より）・銭神第II遺跡調査区全景（東より）
PL2	銭神第II遺跡調査区全景（南より）・銭神第II遺跡表土除去作業
PL3	銭神第II遺跡試掘範囲拡張調査・銭神第II遺跡テストピットの掘削
PL4	銭神第II遺跡トレーナによる旧石器時代の調査・銭神第II遺跡基本層序（南北セクションベルト）
PL5	銭神第II遺跡基本層序（TP16）・銭神第II遺跡休場層検出状況
PL6	銭神第II遺跡縄文時代早期遺物出土状況
PL7	銭神第II遺跡集石検出状況・銭神第II遺跡旧石器時代出土石器（細石刃使用痕のある剥片・剥片・碎片・石核）
PL8	銭神第II遺跡縄文土器・銭神第II遺跡縄文時代出土石器（石錐・磨石・敲石・台石）
PL9	若荷沢遺跡調査区全景（南より）・若荷沢遺跡調査区全景（東より）
PL10	若荷沢遺跡調査区全景（西より）・若荷沢遺跡調査区全景
PL11	若荷沢遺跡テストピット調査状況
PL12	若荷沢遺跡テストピット調査状況・若荷沢遺跡基本層序（TP2）

## 第 I 章 調 査 經 過



## 第1章 調査経過

### 第1節 調査に至る経緯

沼津市、中日本高速道路株式会社は、重要港湾や鉄道貨物駅予定地、工業団地からのアクセス性向上による産業活動の支援、災害時の復旧支援ルート確保・防災拠点へのアクセス向上、市内周遊観光の促進を目的として、新東名高速道路駿河湾沼津スマートインターチェンジを沼津市根古屋地内の新東名高速道路駿河湾沼津サービスエリア（長泉沼津IC～新富士IC間）に設置する計画を立てた。

実施計画書は、平成24年12月に沼津市スマートインターチェンジ地区協議会を設立して、新東名高速道路の駿河湾沼津サービスエリアにおけるスマートインターチェンジの設置に向け、必要な検討・調整を行って作成した。主なアクセス道路は市道0201号線、県道三島富士線、市道0275号線ほか（国道1号「一本松」交差点を北上）を予定し、平成28年度末を開通予定とした。この事業は、平成25年6月11日に国土交通省から沼津市長に対し連結を許可され、遺跡の周辺では平成28年4月から工事に着手し、平成29年3月に工事を完了して平成29年3月に開通した。

### 第2節 発掘調査事業・整理事業の経過

工事に先立ち、当該地における埋蔵文化財の有無を確かめるため、平成27年10月5日に文化振興課の担当者が現地の踏査を行った。その結果、新東名高速道路駿河湾沼津スマートインターチェンジ設置箇所は財團法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所（以後、県理文とする）が本調査を完了していたが、アクセス道路（市道0275号線）改良工事予定地内の沼津市井出字錢神1391-2他と同市井出字掘込891-1他において、埋蔵文化財包蔵地である可能性が高いことが判明した。このことから、本調査の必要性を判断するための試掘調査を平成27年11月16日～平成28年3月18日にかけて実施した。16か所に試掘坑を設定して調査を進めたところ、沼津市井出字錢神1391-2他に設定した3か所において旧石器時代から縄文時代の遺物が検出された。平成28年1月末に試掘調査の結果を道路建設課と協議した結果、速やかに遺物が検出された範囲を拡張し、必要な記録を残すことが必要という結論を得た。この結果を受け、工事計画案に従って拡張調査範囲を定め、道路建設課と文化振興課の担当者が適宜、打ち合せを行い、調査の進捗状況や工事計画などの情報を共有するよう努めた。

以上の結果、現地調査は平成28年3月18日に終了し、道路建設課に引き渡しを行った。

#### （1）平成27年度 試掘調査

現地調査は工事計画に従い、若荷沢遺跡から着手した。

##### 【若荷沢遺跡】

準備工として、12月10日から資材を運搬して駐車場を造成し、15日に防塵ネットを設置した。試掘調査の方法は、沼津市が導入している遺構・遺物データベースである遺跡管理システムに基づく調査を行うため、調査対象地を網羅するように南西角を原点（000-000）とし、北方向にX軸、東方向にY軸となる10m方眼の座標を設定し、X軸とY軸の交点に測量の基準となる方眼杭を設定した。北方向は真北である。つまり、原点から東へ90m、北へ80m地点の方眼杭は009-008(9-8)と表記することとなる。また、10m方眼杭によって区画された大グリッドの名称は、当該グリッドの南西角に位置する方眼杭の名称を使用している（第2図）。

まず、西側から東側に向けて合計8か所の試掘坑（TP1～8）を設定し、土層の堆積状況や包含層を確認しながら進めることとした（第2図）。重機掘削による表土除去の後、12月17日から人力掘削を開始し、地表下約2mまで調査した。その結果、遺構が検出されず遺物も出土しなかったことから、



第1図 駿河湾沼津スマートインターチェンジ位置図

遺跡の範囲外と判断された。そこで、各試掘坑の南壁で土層断面を観察し、写真撮影と土層断面図を作成して試掘調査を終了した。

#### 【銭神第II遺跡】

銭神第II遺跡の試掘調査は、茗荷沢遺跡の調査が終了してから開始した。準備工として、12月18日から資材を運搬して駐車場を造成し、25日に防塵ネットを設置した。試掘調査は、道路改良工事の範囲を対象として西側から東側に向けて合計8か所の試掘坑（TP9～14）を設定し、土層の堆積状況や包含層を確認しながら進めることとした（第2図）。まず、重機掘削による表土除去の後、1月5日から人力掘削を開始し、地表下約2mまで調査した。その結果、試掘坑9から試掘坑11までは遺構が検出されず遺物も出土しなかったことから遺跡の範囲外と判断された。一方、試掘坑12から試掘坑16は縄文時代と旧石器時代の遺物が出土し、遺跡の範囲内であることが確定した。そこで、道路建設課と記録保存の方法と期間について協議し、工事工程と調整した結果、遺物が出土した試掘坑を拡張して735m<sup>2</sup>の範囲を記録保存することとした。

それに伴い、3月1日から試掘坑13および試掘坑14周辺部の表土除去を行った。発生した排土は試掘坑9から試掘坑11を埋め戻し、仮設駐車場を造成する際に利用した。

拡張調査は、試掘坑13と試掘坑14の周辺部に土層観察用の土層帯を残して人力掘削を開始した。その結果、縄文時代の集石2か所、縄文時代の土器・石器・礫と旧石器時代の石器・礫が分布していることが判明したことから、これらの出土位置の記録や写真撮影を行い、3月18日には埋め戻しを完了して拡張調査を終了した。

## (2) 平成28年度 整理事業

整理事業については、本格的な作業および報告書の作成を平成28年度に行った。整理作業は沼津市教育委員会文化振興課文化財調査係が担当し、市内大諏訪46-1に所在する沼津市文化財センターにおいて実務を行った。

整理作業は、初めに出土遺物の洗浄・注記作業を行い、遺物の分類や観察、計測作業を進めた。またこれと並行して、遺構図版の作成や原稿の執筆、全体の編集作業を進めた。

縄文土器と石器は、実測の必要なものを抽出した後、形状解析画像（PEAKIT）を基にしたデジタルトレース図を業務委託により作成し、そのまま報告書図版として使用している。また、石器の一部は整理補助員がAdobe Illustrator®上でペンタブレットによるトレースを行って作成した。

なお、土器の型式名や石器の器種名・計測値・材質などのデータは、遺跡管理システムに入力し、管理している。

これらの作業と並行して、現場資料や写真、日誌の整理を進めながら、報告書図版の作成と原稿の執筆を行った。遺構図版は、現地作業時にデジタルデータとして取り込んだものに、遺跡管理システム上で必要最低限の編集を加えて整合性を確認し、Adobe Illustrator®上で再編集した。これらの編集作業は、「整理作業支援業務委託」として実施している。写真図版については、現地調査時に撮影した記録写真および、整理作業時に撮影した遺物の記録写真を合わせて整理した。以上の作業を行った後、原稿、遺構・遺物図版、写真図版などすべてをAdobe InDesign®上に割り付け、編集作業を行った。



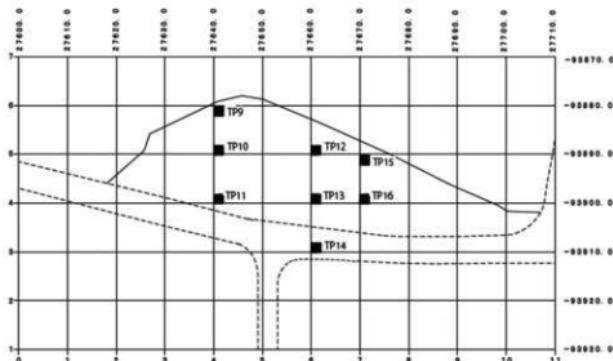
錢神第II遺跡 調査風景



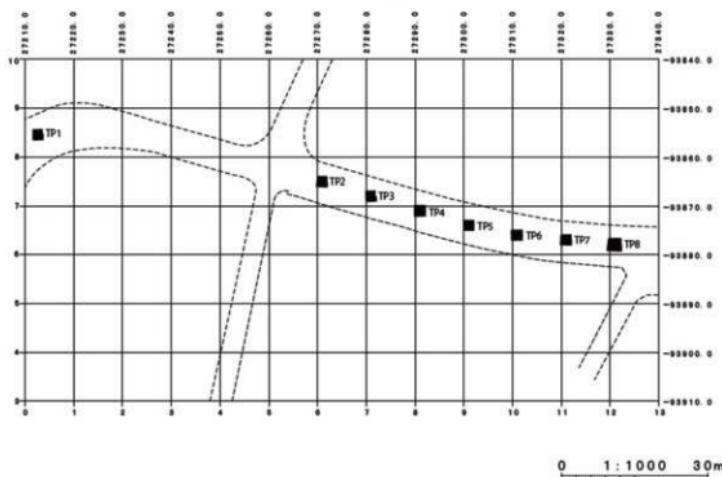
茗荷沢遺跡 調査風景



### 銭神第II遺跡



### 茗荷沢遺跡



第2図 グリッド設定図

## 第Ⅱ章 遺跡の環境



## 第Ⅱ章 遺跡の環境

### 第1節 遺跡の位置と地理的環境

沼津市は静岡県の東部、奥駿河湾の伊豆半島西海岸北端に位置している。北には富士山を背に愛鷹山がそびえており、愛鷹山南麓には樹枝状に伸びるなだらかな尾根が広がっている。この裾野の南側には、かつて浮島ヶ原と呼ばれた低湿地と富士山の山体崩壊を起源とする泥流が堆積した黄瀬川扇状地で構成された平地が広がっている。また、天城山系を源流域とした狩野川が市街地を分断するように流れて駿河湾に注いでおり、この狩野川河口付近から富士市田子の浦にかけての海岸部は、富士川起源の砂礫が堆積し、千本砂礫洲と呼ばれている。その上には青々とした松林が続く千本松原が形成されており、富士山や愛鷹山と併せて雄大で美しい景観となっている。

沼津市域において確認されている遺跡のなかには、古墳時代最初頭に位置付けられる高尾山古墳（前方後方墳）や白鳳期の日吉廢寺跡、戦国期の興国寺城跡、三枚橋城跡などが所在している。また、江戸時代には東海道の宿場町として栄えるとともに、かつて三枚橋城が存在した場所には沼津城が築かれ、水野藩の城下町であった時期も存在した。これらの遺跡の存在は当市域が歴史的に静岡県東部地域の中心であったことを示している。明治時代になると東海道線の駅が設けられ、海運によって沼津港で荷下ろされた物資が鉄道によって運搬されることで、伊豆半島西側の玄関口としての役割がより大きくなり、その後に沼津市が商業都市として発展する要因となった。

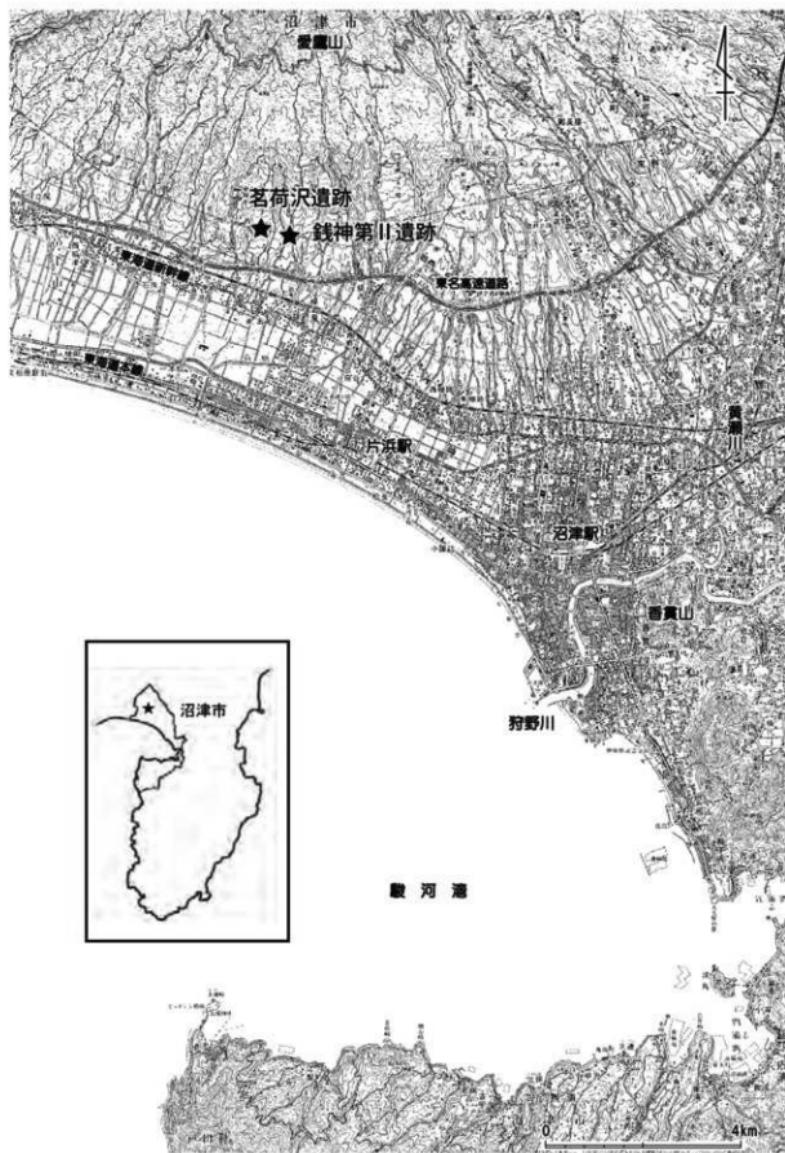
現在の市街地は黄瀬川扇状地の南西部に形成されているが、周辺部の土地利用が徐々に進み、少しずつ拡大している。昭和44年には東名高速道路が開通し、沼津インターチェンジが開設されると、周辺で工業用地の開発が進み鉄工団地や工業団地が形成された。また、平地部にも紡績業や電気・機械の製造に関連した大規模な工場が造られ、沼津は商業のみならず工業の製造拠点としての性格も有することとなった。国や県に関連した公共機関・施設も多く存在しており、現在は静岡県東部の中核都市として政治・経済・産業の中心的な役割を担っている。

沼津市の北側にそびえる愛鷹山は、富士火山の前身である小御嶽火山や箱根火山などと前後して、約40万年前に活動を開始し、約10万年前に活動を停止した火山である。古期には玄武岩質や凝灰角礫岩の溶岩を主に噴出させていたが、しだいに安山岩からデイサイト質の溶岩に変化することから、4期（旧期・中期・新期・最新期）の噴火ステージ（活動期）が存在したと指摘されている（由井 1993）。そしてこれらの上に、約8万年前に活動を開始した「古富士山」と完新世の「新規富士山」の噴出物である、いわゆる「愛鷹ローム層」が堆積したことにより、現在の愛鷹山麓が形成されている。

愛鷹山麓には開析作用によって複数の尾根が存在しており、これらの尾根上に数多くの遺跡が存在している。愛鷹山麓における遺跡の様相を見ると、高橋川以東の愛鷹山東南麓において特に数多くの遺跡が確認される。なかでも中沢川と桃沢川で挟まれた範囲は足高尾上丘陵と呼ばれ、愛鷹火山の最も新しい段階の溶岩流によって形成された扇状の緩斜面になっており、葛原沢遺跡や広合遺跡、中見代遺跡といった遺跡の密集した分布が見られる。これらの遺跡群は足高尾上遺跡群と呼ばれ、その様相は全国的に有名であり、県営愛鷹運動公園の建設や第二東名建設工事に伴って発掘調査が実施されている。

一方、高橋川以西の愛鷹山南麓は地質的に中期凝灰角礫岩が堆積している箇所に相当しており、比較的古い約17万年前の第2ステージ（中期I）に形成された地層の上に富士山の噴出物が堆積している。また、高橋川以西から富士市にかけては、標高250m付近の傾斜変化点から湧き出る湧水の水流によって開析作用を受けたために複雑な地形が形成され、前述した足高尾上遺跡群が存在する愛鷹山東南麓とは、地質的な特徴や地形（尾根の形状）の様相が異なっている。

本書において報告する銭神第II遺跡と若荷沢遺跡は、高橋川以西の愛鷹山南麓に位置している。



第3図 遺跡位置図

## 第2節 周辺遺跡と歴史的環境

本書で報告する銭神II遺跡・若荷沢遺跡の周辺を中心に、高橋川以西の遺跡について概観を述べる。

### 【旧石器時代】

旧石器時代の遺構や遺物は、本書で報告する銭神II遺跡の他に、第二東名建設工事に伴って調査された銭神遺跡（No.29地点）と若荷沢遺跡（No.30地点）の他、長坂遺跡（No.36地点）、小坂上北遺跡（No.35地点）、藤ボサ遺跡a区（No.31地点）、鎌ヶ沢遺跡（No.28地点）、潤ヶ沢遺跡（No.27地点）、的場遺跡（No.26地点）、秋葉林遺跡（No.25地点）、赤野西遺跡（No.24地点）、赤野遺跡（No.23地点）、元野遺跡（No.19地点）、イタドリC遺跡（No.15地点）等において確認されている。

愛鷹山麓における後期旧石器時代はいわゆる愛鷹編年として現在5期に分類されており、これらの遺跡でも各時期に対応する石器群が確認されている。特に第5期に相当する休場層から漸移層にかけて多くの遺物が確認されていたが、近年になり第VII黒色帶や第IVスコリア層などの愛鷹編年では想定していなかった上部ローム層の最下層においても石器群が確認されるようになっている。旧石器時代の遺跡に関連した調査の総数では本遺跡の東を流れる高橋川以東でその事例が多いものの、後期旧石器時代初頭の遺跡に関しては高橋川以西で多く確認されている。

県埋文が調査を実施した元野遺跡では第IVスコリア層、第VII黒色帶で剥片類や石核が検出されており、出土した黒曜石の原産地分析では信州系であることが判明した。また、秋葉林遺跡では第VII黒色帶において石器集中箇所が確認され、ホルンフェルス製の礫器や石核などが出土している。また、沼津市が発掘調査を実施した井出丸山遺跡においては第IVスコリア層～第VII黒色帶下半部にかけて、9か所の石器ブロックが確認され、合計1,300点以上の石器、剥片、碎片が出土している。これらについて石材の原産地分析を行った結果、在地系の石材であるホルンフェルス以外に信州系や神津島恩馳島産の黒曜石、下呂石が確認された。特に神津島産の黒曜石は、国内で発見された神津島産黒曜石で最古のものであり注目される。

### 【縄文時代】

愛鷹山麓の遺跡のうち最も遺跡数が多いのが縄文時代である。本報告書で取り上げる銭神II遺跡では、縄文時代の土器や石器が出土した。また、近接する銭神遺跡と若荷沢遺跡の他にも藤ボサ遺跡、的場遺跡、秋葉林遺跡、赤野遺跡、元野遺跡では、第二東名建設工事に関連した発掘調査によって、膨大な数の土器や石器が出土している。

各遺跡から出土する土器は草創期から後期にかけての長期に及んでいるが、特に早期前半（押型文土器）、早期後半（条痕文土器）、前期後葉（諸磯b式）、前期末葉～中期初頭（十三菩提式～五領ヶ台式）にかけての遺物が多く見られる。ただし、大半の遺跡で土坑や焼土、集石といった遺構の検出はあるものの、住居址については的場遺跡で2軒が検出されているにすぎないことから、この地域における縄文時代の人々の居住形態は不明な点が多い。これは、発掘の段階において愛鷹ローム層における縄文時代の時期に相当する栗色土層や富士黒土層では住居址プランの見極めが困難な場合が多いことから、単に確認されていないだけの可能性もある。なお、的場遺跡では、早期前葉の土器である小型の田戸下層式の中に小型の梢円押型文土器が入っている「入れ子」の状態での出土事例があり、特異な出土事例として注目される。

### 【弥生時代】

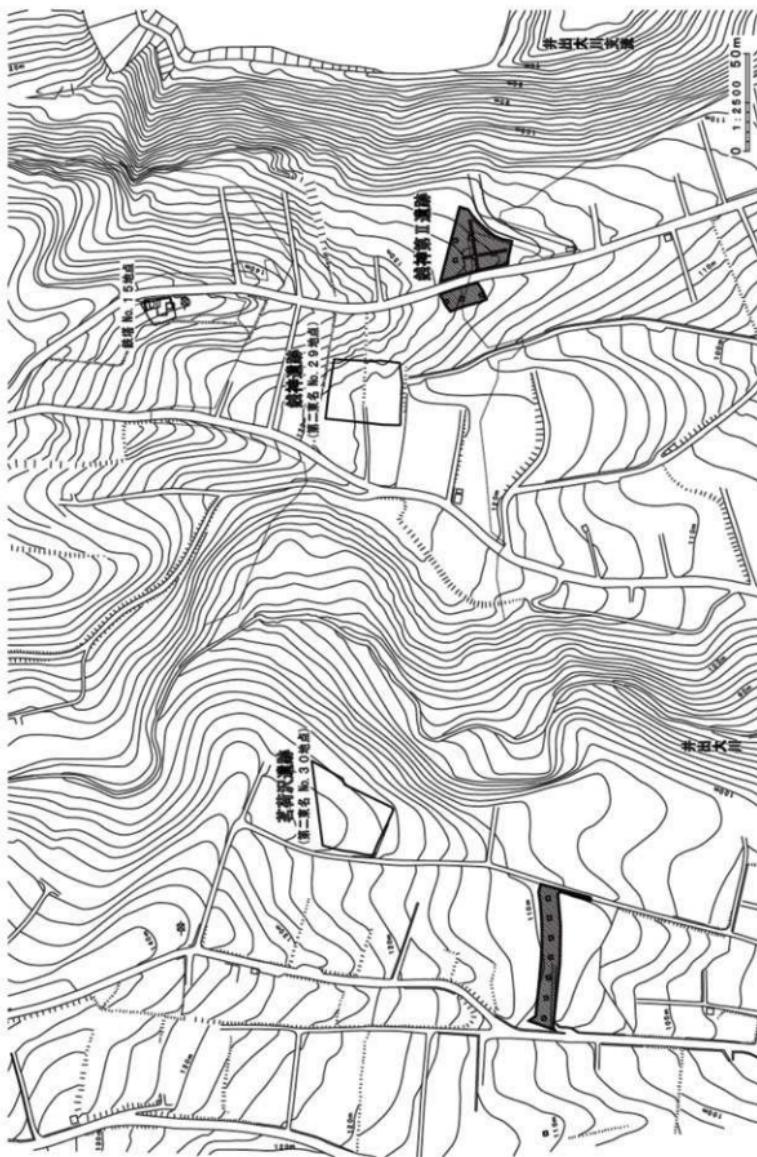
沼津市域においては、縄文時代晩期～弥生時代中期の遺跡は極めて少なく、弥生時代後期に入ると急激に増加する傾向にある。愛鷹山麓の尾上足高丘陵上においては八兵衛洞遺跡や八兵衛屋敷遺跡、横出遺跡などといった弥生時代後期～古墳時代初頭にかけての遺跡が複数確認されている。これらの遺跡は、沼津市東熊堂に所在する古墳時代最初頭の前方後方墳である高尾山古墳との関連が想定されている。ま



第4図 周辺主要道路分布図

第1表 周辺主要遺跡一覧表

図 No.	遺跡名	沼津市 通路 No.	第二東名開通地点	発掘調査報告書等	図 No.	通跡名	沼津市 通路 No.	第二東名開通地点	発掘調査報告書等
1	長坂通跡	414	No.36地点	沼津市 2014	37	丸尾古墳群	40		
2	小坂上北通跡	326	No.35地点	沼津市 2014	38	柳古墳古墳群	422		
3	石古墳群	16	No.34地点	沼津市 2006	39	芦ヶ原寺跡	38		
4	福山通跡	15			40	興國寺墓地	35		
5					41	中アラク通跡	37		
6	通下通跡	12			42	梶原丸毛通跡	36		
7	船川通跡	14			43	古音通跡	34		
8	ミタケ通跡	17			44	板古屋通跡	46		
9	藤ヶ古墳	408	No.32地点	静岡県 2010	45	下岡通跡	47		
10	藤ヶ古墳	407	No.31・32地点	静岡県 2010	46	青野中点・通跡	45		
11	丸山塚上通跡	18			47	赤野西通跡	通跡外	No.24地点	沼津市 2014
12	若沢通跡	406	No.30地点	静岡県 2010	48	赤野通跡	58	No.23地点・CP-1地点	沼津市 2012・2014
13	鉢池通跡	405	No.29地点	静岡県 2012	49	井戸西通跡	388	No.21地点	沼津市 2012
14	鉢池南通跡	42			50	井戸川通跡	387	No.20地点	沼津市 2014
15	堀込通跡	23			51	元野佐土手通跡	72		
16	房崎通跡	32			52	元野通跡	71	No.19地点	沼津市 1976・静岡県 2008
17	房ヶ通跡	33			53	土橋第三通跡	通跡外	No.18地点	沼津市 2014
18	川上通跡	19			54	土橋第四通跡	389	No.17地点	沼津市 2014
19	井出丸山古墳	25			55	云霧第三通跡	328		
20	井出丸山通跡	411		沼津市 2011	56	云霧第三通跡	329		
21	飯壼通跡	27			57	四ツ谷古墳群	70		
22	井戸古墳群	412		静岡県 1968・沼津市 1994	58	伊良字形古墳跡	57		
23	土地通跡	20			59	伊良字形古墳跡	57		
24	川上古墳群	21			60	大窓通跡	54		
25	松木通跡	22			61	柳沢古墳群	418		
26	神田通跡	24			62	角右衛門アラク通跡	59		
27	阿賀氏船跡	324			63	大芝古通跡	60		
28	北浦通跡	28			64	トヤ安通跡	53		
29	馬場地下式廻し櫛	29			65	ヲカメ通跡	52		
30	鎌倉等通跡	203			66	轟ヶ久保通跡	288		
31	鎌ヶ古通跡	404	No.28地点	静岡県 2012	67	鳥谷アラク通跡	287		
32	別沢通跡	403	No.27地点	静岡県 2013・沼津市 2014	68	東古佐痕跡	61		
33	御油通跡・のぬい古墳群	402・41	No.26地点	静岡県 2010	69	元野新井通跡	335		
34	秋葉林通跡	396	No.25地点・CP-2地点	静岡県 2009・2010・沼津市 2012	70	笠置通跡	421		
35	青野中山古墳	373			71	三角通跡	310		
36	元野古墳群	44			72	イタドリに通跡	73	No.15地点	静岡県 2009



第5図 調査区位置と周辺地形

た、浮島沼北東岸の縁辺部（愛鷹山東南麓から伸びる尾根の先端部）では日黒身遺跡や尾崎遺跡などの弥生時代後期の集落が確認されている。

本書で報告する遺跡の周辺では弥生時代の遺構や遺物が確認されている遺跡の事例は少なく、明確な住居址等は皆無に近い状態である。住居址の可能性がある遺構としては、県埋文によって調査された秋葉林遺跡において後期に属する竪穴状遺構が検出されているのみであり、遺物は土器片と磨製石器2点が出土している。また、古城遺跡において弥生時代中期～後期にかけての遺物が出土している。この古城遺跡は興国寺城跡の内部（伝東船着場跡地点その他）に位置しており、遺構は検出されていないものの、興国寺城跡北曲輪において弥生時代中期の方形周溝墓が検出されていることから、当該期の集落が存在したものと推測される。これらは愛鷹山麓の事例であるが、異なる様相の遺跡として浮島沼内の微高地に離鹿塚遺跡が集落を形成しており、弥生時代中期～後期の土器や多数の木製品類が発見されている。

### 第3節 遺跡の土層

#### （1）愛鷹ローム層

第1節において触れたように、愛鷹山麓における尾根の傾斜地には「愛鷹ローム」と呼ばれる火山噴出物が厚く堆積している。約8万年前に開始したと考えられる「古富士火山」の活動により形成された愛鷹山麓のローム層は、下部ローム層・中部ローム層・上部ローム層という3期に大別されている（愛鷹ローム團研 1969）。

上部ローム層は、スコリア層と腐食し土壌化の進んだ黒色帶が交互に層を成している点に特徴があり、各土層のおおよその堆積年代も明らかにされている。年代的には3万数千年前まで遡ることが可能であり、おおむね関東ローム層の立川ローム層に対応するものと考えられている。現在までのところ、考古学的な遺物が確認されたのは上部ローム層のみであり、中部ローム層以下で明確なヒトの活動の痕跡は確認されていないことから、発掘調査は上部ローム層のみで実施され、中部ローム層を掘り込む調査はほとんど実施されていない。

各層の呼称については、県内市町の埋蔵文化財担当者や愛鷹ローム層の研究者らの間で検討を重ね、考古学および地質学の調査・研究による検証作業が行われて統一された。各層には上から順に番号が付されており、発掘調査時における層位の名称はこれらに基づいて表記されている。

#### （2）各層の特徴

以下、愛鷹山麓における上部ローム層の基本的な層序を示し、その特徴を述べる。

**新期スコリア層（新期SC）** … 暗黄褐色を呈し、褐色のスコリアが密集している。弥生時代～古墳時代の遺物が含まれる。

**栗色土層（KU）** … 黄褐色のローム層に似た色調を示すが休場層よりもやや暗い。新期スコリア層との間にカワゴ平降下軽石と呼ばれる細かな白色の軽石粒子を含む。繩文時代前期以降の遺物が含まれる。

**富士黒土層（FB）** … 黒色を呈し、緻密で粘性が強い。繩文時代草創期から前期にかけての遺物を含む。

**漸移層（ZN）** … やや黒ずんだ黄褐色を呈している層で、休場層との境界が不明瞭となっている。その名のとおり漸移的な土壤の変質を示している。出土する遺物は少ないものの、旧石器時代と繩文時代の遺物を含む。

**休場層（YL）** … 粘性の強いローム層で、通常50～60cmの層厚を持つ。箱根山西麓では1mに達する箇所も存在する。特徴から上位（YL U）・中位（YL M）・下位（YL L）の3層に細分され、愛鷹山麓における旧石器時代では最も石器の出土例が多い層である。下位はスコリアを多く含んでいるため赤みが強く硬くなっている。中位・上位に比べると遺物量が少ない。中位はやや黒ずんだ黄褐色を呈し、

スコリアをわずかに含む。上位は3層のなかで最も鮮やかな黄褐色を呈し、粘性が強い。

**休場層下部黒色帯（B B O）** … 暗褐色を呈し、赤褐色・橙色のスコリアを比較的多く含む。かつては「Y L L B」の名称で呼ばれたが、現在では「B B O」の名称に変更された。

**第Ⅰスコリア層（S C I）** … 橙色を呈したスコリアから成る。

**第Ⅱ黒色帯（B B I）** … 乾くとブロック状に割れる。下半で黒味が強く、上半は風化の進んだ細かいスコリアが多く含まれる。休場層に次いで石器が多く出土し、下底から彫器が特徴的に出土する。

**ニセローム層（N L）** … 黄褐色を呈し、離れるとローム層のように見えるためこのように呼ばれるが、実際には風化したスコリアと火山ガラスから成る層である。姶良丹沢火山灰（A T）がパッチ状に含まれている。

**第Ⅲ黒色帯（B B III）** … 黒褐色を呈し、よく締まっている。

下部には比較的大粒の橙色スコリアが多く含まれ、上部に向けて漸移的に減少するため、第Ⅱスコリア層との明瞭な区分が困難である。

**第Ⅳスコリア層（S C II）** … 暗橙色を呈し、大粒の橙色スコリアから成る。

**第Ⅴ黒色帯（B B IV）** … はっきりとした漆黒色を呈し、非常に目立つ層である。複数の遺跡で小型のナイフ形石器を主体とする石器群が出土している。

**第Ⅵスコリア層（S C III）** … 5枚のスコリア層（s 1～s 5）と2枚の黒色帯（b 1・b 2）から構成されている。下部3枚のスコリア層のうち中位の層は、黄褐色で非常に硬く締まっていることから明瞭に識別が可能であり、箱根山西麓と対比する際の鍵となる。その上位には層厚10cm弱ほどの黒色帯が2層存在する。両層とも他の黒色帯に比べてスコリアを多く含む。b 2は特にその傾向が強い。

**第Ⅶ黒色帯（B B V）** … 灰色がかった黒褐色を呈し、乾くと硬く締まり脱色する。下部のスコリア層は赤褐色や黒色のスコリアが密集しているためとても硬く、調査時の面的な把握が容易である。

**第Ⅷ黒色帯（B B VI）** … 径7～8mmの下部スコリア層との境界を明確にすることが難しい。スコリアが混じり、乾くと硬く締まるためクラックが入りやすい。

**第Ⅸ黒色帯（B B VII）** … 漆黒色を呈した、風化埋没土壤層である。土壌化が進んでいるため、他の黒色帯に比べて粘性が強く識別もしやすい。

**第Ⅹスコリア層（S C IV）** … 橙色スコリアから成り、褐色を呈する。



第6図 愛鷹ローム層基本層序柱状図

### 第Ⅲ章 錢神第Ⅱ遺跡の調査



## 第三章 銭神第II遺跡の調査

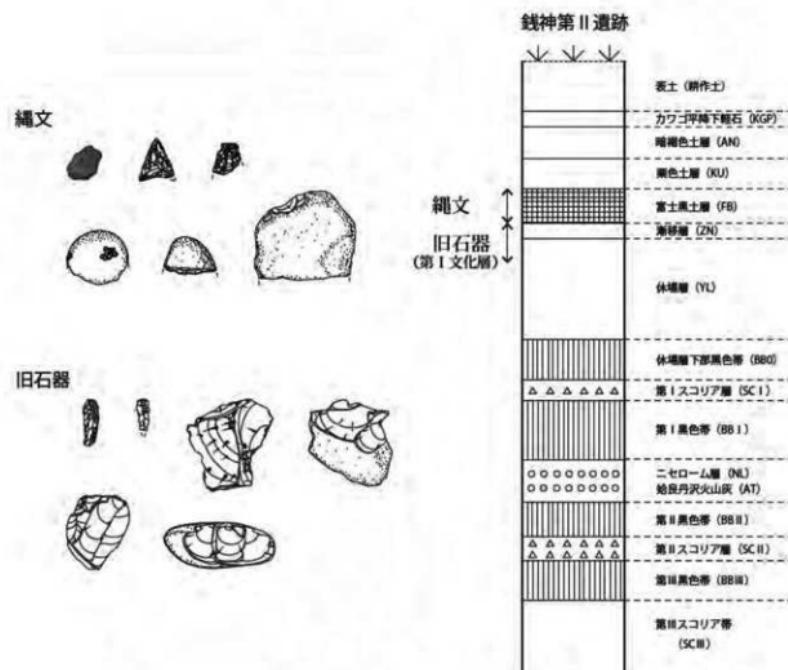
### 第1節 銭神第II遺跡の概要

銭神第II遺跡は標高125m付近、新東名高速道路駿河湾サービスエリアの西側に位置する。調査地点は緩やかに南方向に下る尾根が広がっており、東側には深い谷を刻む井出大川が流れている(第5図)。

今回の調査では、旧石器時代と縄文時代の遺構と遺物が確認されている。旧石器時代については、休場層から漸移層にかけて細石刃等が出土した。縄文時代については富士黒土層から集石2基を検出し、土器と石器と礫が出土している。

#### (1) 土層の堆積状況(第8図)

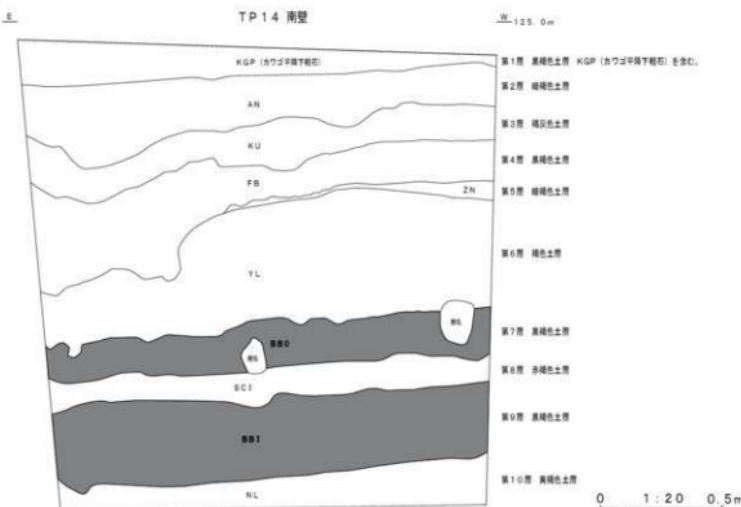
銭神第II遺跡では「愛鷹ローム」上部ローム層の第IIIスコリア帯からカワゴ平降下軽石層(KGP)にかけての堆積を確認している。ここでは、土層堆積状況が良好な試掘坑14(TP14)において、始良丹沢火山灰とカワゴ平降下軽石を鍵層にして10層に細分した。



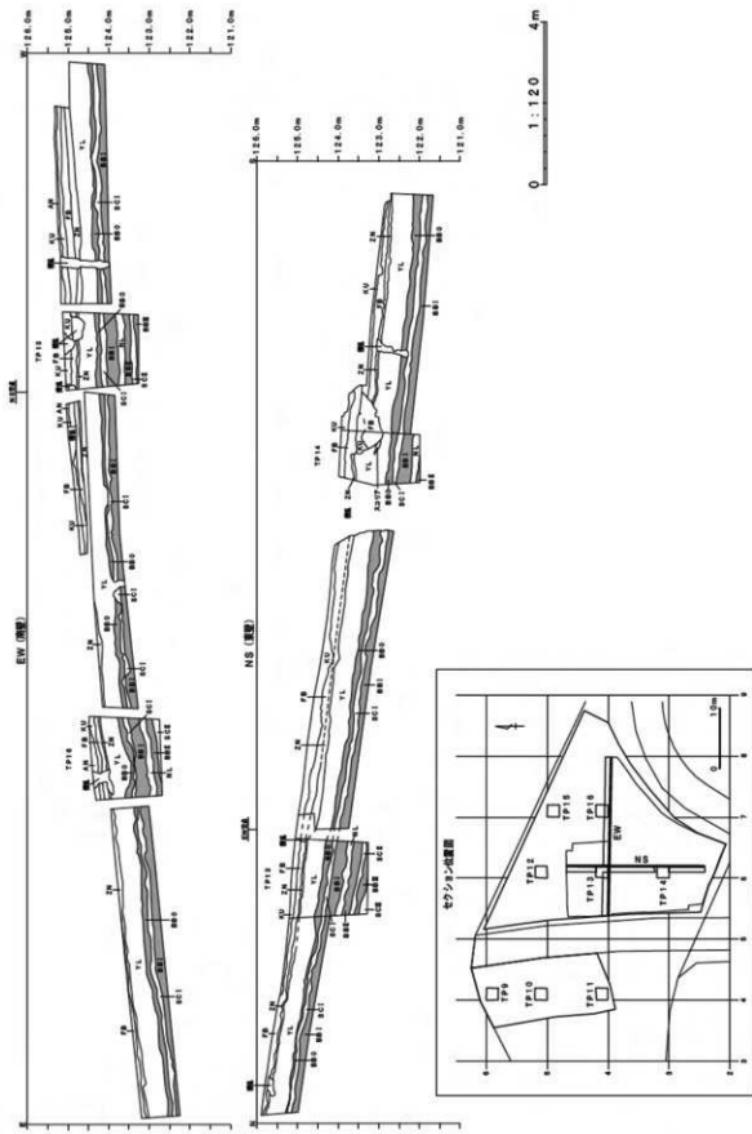
第7図 銭神第II遺跡の土層柱状図と文化層

- 第1層 黒褐色土層 (KGP) :** 本層に含まれるカワゴ平降下軽石は、BP2,830 ± 120 と BP3,250 ± 70 とされる。層厚は約20cmを測る。
- 第2層 暗褐色土層 (AN)**
- 第3層 褐灰色土層 (KU) :** 栗色土層
- 第4層 黒褐色土層 (FB) :** 富士黒土層。縄文時代早期から前期の集石、土器・石器・礫を検出した。
- 第5層 暗褐色土層 (ZN) :** 游移層。旧石器時代の石器が出土した。
- 第6層 褐色土層 (YL) :** 休場層。旧石器時代の石器が出土した。
- 第7層 黒褐色土層 (BBO) :** 休場層下部黑色帶
- 第8層 赤褐色土層 (SC I) :** 第Ⅰスコリア層
- 第9層 黒褐色土層 (BB I) :** 第Ⅰ黒色帶
- 第10層 黄褐色土層 (NL) :** ニセローム層。肉眼で姶良丹沢火山灰由来の火山ガラスを確認した。

調査区内の土層堆積状況は、東西方向と南北方向の試掘溝で第Ⅲスコリア帯スコリアⅠから第1層黒褐色土層 (KGP) まで観察した(第8図)。これらの層序は安定した堆積を示しており、浸食面や斜行関係等が認められなかった。これらのことから、検出した遺構や遺物は廃棄あるいは遺棄された段階から現在まで原位置を保っていることが推定される。



第8図 銭神第Ⅱ遺跡 標準土層図



第9図 銀神第II遺跡 土層セクション図

## 第2節 旧石器時代の遺構と遺物

銭神第Ⅱ遺跡では発掘調査の結果、旧石器時代に属する石器群が確認された。

出土層位は休場層から石器3点、礫2点の合計5点、漸移層から石器3点が出土した。この石器群は細石刃石器群に比定されると推測されるものの、主体的器種の出土が少なく、断片的な内容となっている。また年代についても、炭化物が出土していない点や有効な鍵層に挟まれていない点から、石器群の変遷を検討する場合に限定的な内容の資料となった。

### (1) 第Ⅰ文化層の遺構と遺物の分布状況（第10図）

第Ⅰ文化層の遺物は、井出大川を臨む尾根の東側に分布している。本文化層では休場層～漸移層にかけて、単独出土の礫2点と、単独出土の石器6点からなる総計8点の遺物が出土した。

#### ① 遺 物

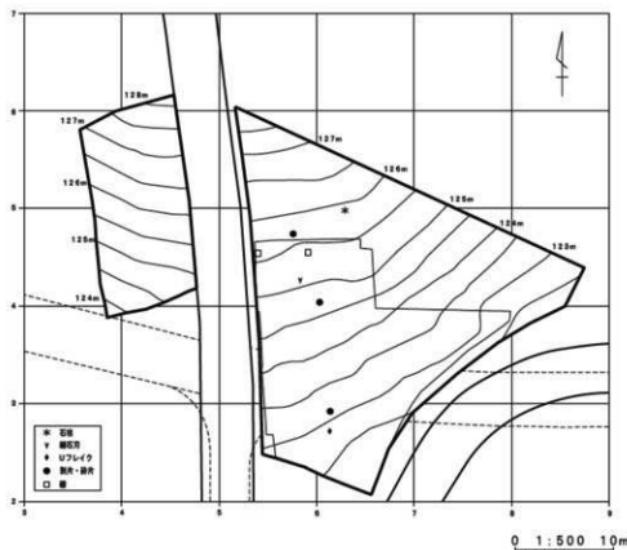
第Ⅰ文化層出土の遺物は、単独出土6点の石器群によって構成される。器種は細石刃1点、使用痕のある剥片1点、石核1点、剥片・碎片3点であった。

#### 細石刃（第11図1）

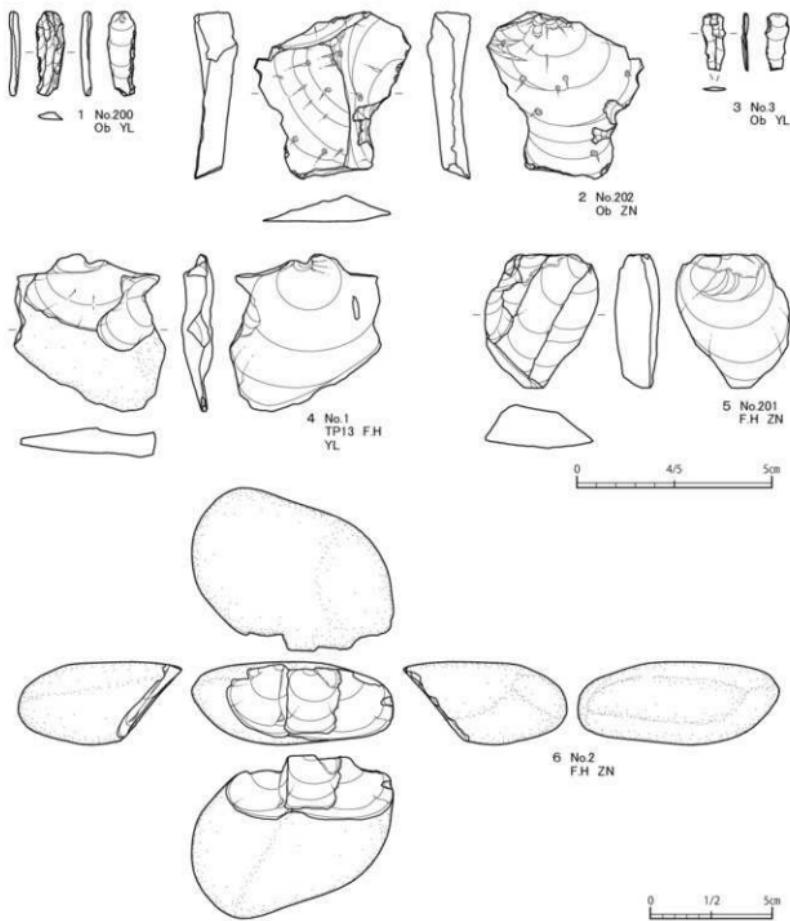
第11図1は細石刃である。残存状況は、打面部から末端部までほぼ完全に残っている。剥離面や主要剥離面の剥離痕の観察によると、同一方向の剥離で形成されたものであった。細石刃の下端には細石刃石核の下面を取り込んでいるので、細石刃石核の剥離作業面の長さを示していると思われる。石材は黒曜石である。

#### 使用痕のある剥片（第11図2）

1点出土した。第11図2は下端部を欠損している。幅広の剥片を素材とし、素材の右側縁に使用痕



第10図 銭神第Ⅱ遺跡 第Ⅰ文化層 遺物分布図



第11図 銭神第II遺跡 第I文化層 石器実測図

が認められる。鋭い縁辺には微細な剥離痕が観察される。素材を構成している剥離痕は、剥離面と主要剥離面が90度異なる方向の剥離痕によって構成されている。石材は黒曜石である。

#### 碎片（第11図3）

第11図3は碎片である。重量が0.1g以下のため碎片に分類している。石材は黒曜石である。

#### 剥片（第11図4・5）

2点が出土した。第11図4は幅広の状態に作出された剥片で、上設の打面からの剥離痕と主要剥離面で構成される。表面に自然面が残ることから、剥片剥離作業の早い段階で剥離されたものである。石

第2表 銭神第Ⅱ遺跡 第Ⅰ文化層 遺物観察表

〔石器〕

図面No	調査区画構	遺物No	基種	石材	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	X座標	Y座標	Z座標
11-4	TP13	1	剝片	F.H	YL	3.7	3.8	0.6	10.3	-93.899.609	27.660.303	124.479
11-6	GRID	2	石核	F.H	ZN	3.4	8.1	5.7	210.6	-93.890.208	27.662.898	126.082
11-3	GRID	3	碎片	Ob	YL	1.4	0.6	0.1	0.1	-93.892.611	27.657.583	126.046
11-1	GRID	200	縞石刃	Ob	YL	2.1	0.7	0.2	0.3	-93.897.390	27.658.307	125.139
11-5	GRID	201	剝片	F.H	ZN	3.4	2.8	1.1	12.4	-93.910.785	27.661.380	123.165
11-2	GRID	202	使用痕のある剝片	Ob	ZN	4.0	3.8	1.0	11.1	-93.912.808	27.661.336	122.866

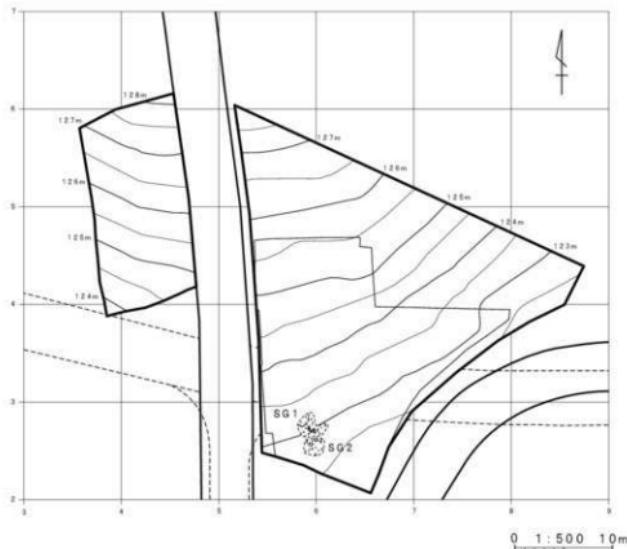
〔縞〕

調査区画構	遺物No	層位	石材	縞状態	媒・タール	重量(g)	接合No	X座標	Y座標	Z座標
GRID	198	YL	An	B2		343.0		-93.894.491	27.659.117	125.472
GRID	199	YL	An	B2		462.0		-93.894.597	27.653.934	125.550

材はF.ホルンフェルスである。5は縦長の状態に作出された剝片で、剥離痕の観察では剥離面と主要剥離面を構成する剥離痕が同一方向の剥離によって構成されることから、剥離方向を一定にした剝片剥離技術によって生産されたものと判断される。石材はF.ホルンフェルスである。

#### 石核（第11図6）

1点が出土した。石核の素材と思われる縞に数回の剥離を加えているもので、石核というよりも素材礫に近い石核である。自然面を打面とするもので剝片剥離作業面における剥離痕の観察では、幅広い剥片を作出していたと思われる。剝片剥離作業面以外は自然面が残る。F.ホルンフェルスの海浜縞を素材としている。



第12図 銭神第Ⅱ遺跡 縄文時代 遺構分布図

## ②まとめ

第Ⅰ文化層は休場層～漸移層にかけて出土した石器群によって構成され、井出大川を臨む調査区の北側を中心として石器が分布している。遺物は、単独出土の礫2点と、単独出土の石器6点からなる総計8点が出土した。器種構成は細石刃1点、使用痕のある剥片1点、石核1点、剥片・碎片3点と断片的な内容であった。これらの石器群の帰属時期は休場層～漸移層にかけて出土していることと器種組成に細石刃を含むことから細石刃石器群と推定することが可能であるが、個々の石器が単独で出土していることから、石器群としての同時性に乏しいものである。これらのことから、旧石器時代終末期の人々が一時的に留まり、石器類を残して移動したことが推定される。

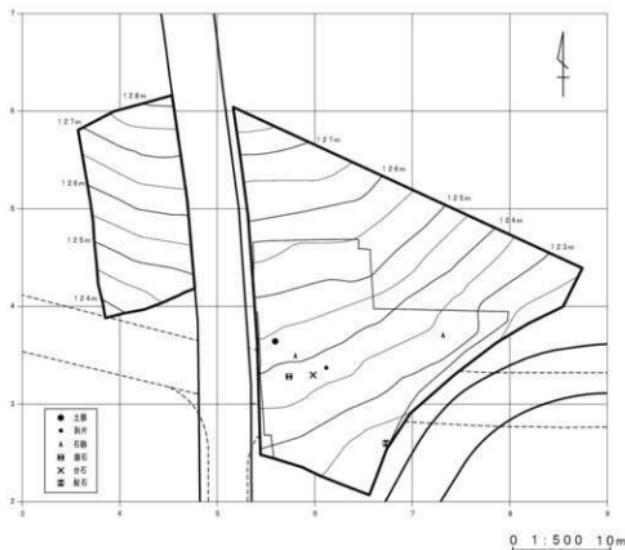
## 第3節 繩文時代の遺構と遺物

銭神第Ⅱ遺跡では発掘調査の結果、縄文時代に属する集石2か所を検出し、土器1点・石器6点・礫201点、炭化物5点が出土した。そのうち出土遺物の94%を占めているのは礫であり、近隣の沢から礫を探集し遺跡内に集めて集石を形成したことが、本遺跡の形成要因となっていることが明らかとなつた。ここでは、検出された集石と出土した遺物について記述する。

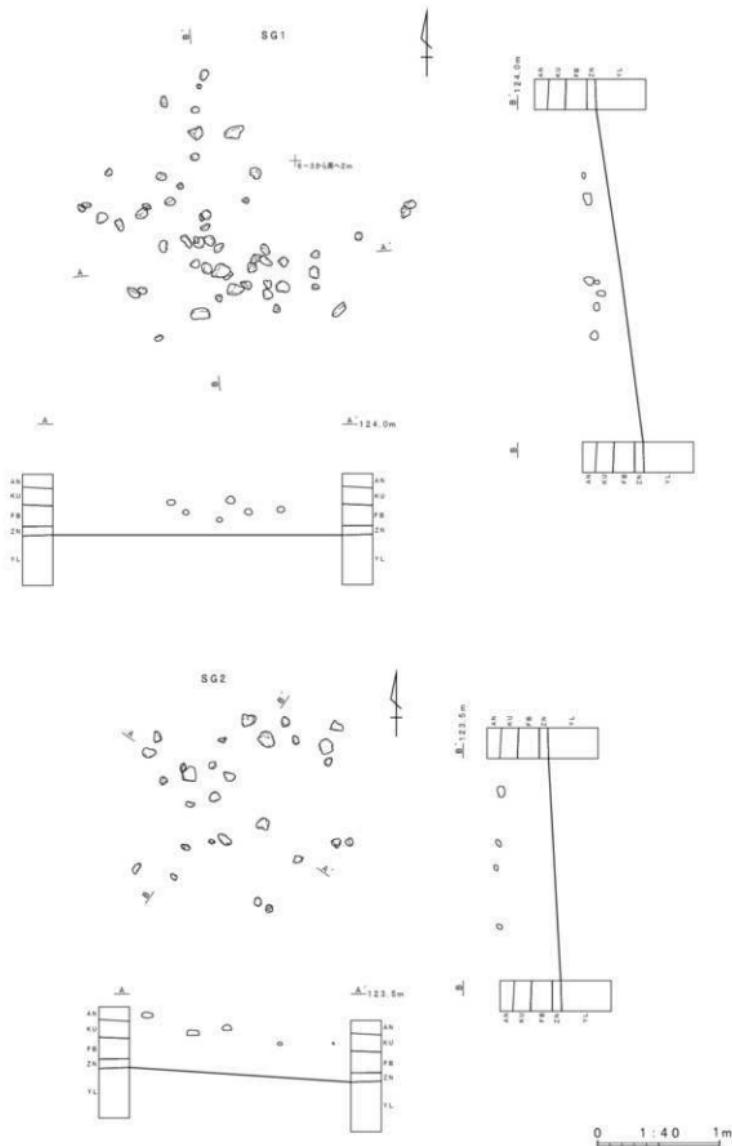
### (1) 遺構

#### ①集石

集石は5-2・6-2グリッドで検出した。これらの礫は2か所の集中が認められたことから第1号集石と第2号集石に細分している。



第13図 銭神第Ⅱ遺跡 縄文時代 遺物分布図



第14図 銭神第Ⅱ遺跡 繩文時代集石実測図

**第1号集石 (第14図)**

5-2・6-2 グリッドに位置する。構成礫は55点で、長軸約2.7m、短軸約2.0mの範囲に集中する。検出層位は富士黒土層である。垂直分布は標高123.18mから123.58mにかけて約40cmの分布幅を形成しており、大部分の礫は標高123.33m付近に礫の底面を置いている。南側に第2号集石が隣接する。

**第2号集石 (第14図)**

5-2・6-2 グリッドに位置する。構成礫は28点で、長軸約2.1m、短軸約1.7mの範囲に散在する。検出層位は富士黒土層である。垂直分布は標高122.98mから123.31mにかけて約33cmの分布幅を形成しており、大部分の礫は標高123.16m付近に礫の底面を置いている。北側に第1号集石が隣接する。

**(2) 遺 物**

遺物は土器1点、石器6点、集石の構成礫83点、単独出土の礫118点、炭化物5点の合計213点で構成される。このうち土器1点、石器5点を図示した。

**①土 器 (第15図1)**

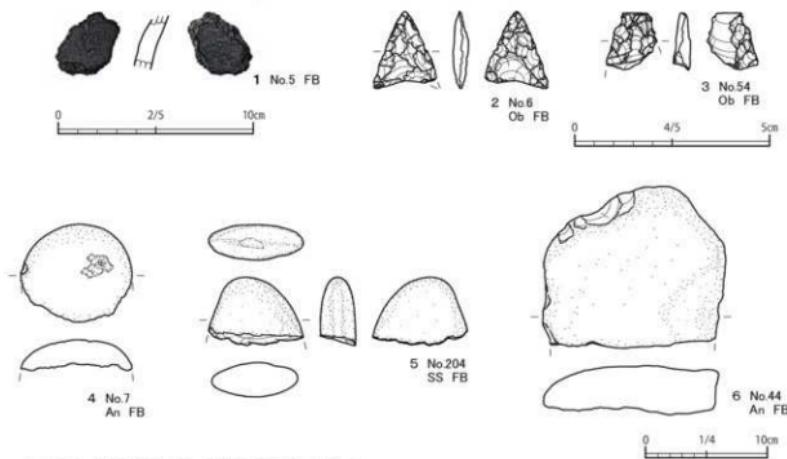
第15図1は小片のため器形や時期の判断が困難であるが、胎土に纖維を含むことから早期後半の土器である可能性がある。内面には煤が付着している。色調は外面が褐色(7.5YR4/6)、内面が黒色(7.5YR1.7/1)を呈する。

**②石 器 (第15図2~6)**

出土した石器は剥片を含めて総数6点であり、うち5点を図示した。出土した定型的な石器は、石鏃2点、磨石1点、敲石1点、台石1点である。これらの石器は出土層位と平面分布から縄文時代に属すると想定されるが、石器自体から帰属時期を明らかにできないため、包含層の遺物として器種ごとにまとめた。

**石鏃 (第15図2・3)**

第15図2・3は石鏃である。2はわずかに凹基になる三角形鏃である。表裏面ともに丁寧な調整が



第15図 銭神第Ⅱ遺跡 縄文時代 遺物実測図

施されている。3は石鎚の一部で欠損のため形態が不明瞭である。ともに黒曜石を石材とする。

#### 磨石（第15図4）

第15図4は磨石である。敲石としての機能を併せ持つため、上端部をより硬いものに打ちつけた衝撃で破損している。石材は円礫の安山岩である。

#### 敲石（第15図5）

第15図5は敲石である。対象物を敲いた敲打痕が残り、破損している。石材は円礫の砂岩である。

#### 台石（第15図6）

第15図6は台石である。表面は使用により平坦になっている。石材は板状の安山岩である。

### （3）まとめ

縄文時代の遺構と遺物は、富士黒土層で検出した集石2か所と、土器1点・石器6点・礫201点・炭化物5点で、井出大川を臨む調査区の南側に分布していた。石器の器種構成は、石鎚2点、磨石1点、敲石1点、台石1点であった。集石は、隣接した2基のうち第1号集石の方が構成礫の数が多く、礫も集中していた。土器は破片1点ではあるが、縄文時代早期後半に帰属する可能性がある。

石器は、狩猟具である石鎚と調理具である磨石、調理具あるいは工具としての敲石、作業台としての台石が出土している。これらのことから、本調査地点では縄文時代早期後半の人々が集石を営み、主に石器を用いて野営していたことが明らかとなった。

第3表 銭神第Ⅱ遺跡 縄文時代 遺物観察表

#### 【石器】

図No.	調査区遺構	遺物No.	種種	石材	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	X座標	Y座標	Z座標
15-2	GRID	6	石鎚	Oib	FB	1.8	1.5	0.4	0.8	-93.905.055	27.658.009	124.354
15-3	GRID	54	石鎚	Oib	FB	1.4	1.1	0.4	0.6	-93.902.946	27.673.167	123.546
15-4	GRID	7	磨石	An	FB	8.0	9.1	2.7	206.0	-93.907.193	27.657.370	124.122
15-5	GRID	204	敲石	S5	FB	5.6	7.6	2.9	147.5	-93.914.018	27.667.302	122.535
15-6	GRID	44	台石	An	FB	13.1	15.0	4.2	1201.1	-93.907.029	27.659.825	123.976

#### 【土器】

図No.	出土地点	遺物No.	種別	層位	胎 土	色 調	備考
15-1	005-003	5	縄文土器	FB	縄維を含む。	外面：褐色（7.5YR4/6） 内面：黒色（7.5YR1.7/1）	内面に焼付着

## 第IV章 茄荷沢遺跡の調査



## 第IV章 茗荷沢遺跡の調査

### 第1節 茅荷沢遺跡の概要

茅荷沢遺跡の調査区は標高110m付近、新東名高速道路駿河湾沼津サービスエリアの西側890mに位置し、全体は南北方向へ緩やかに傾斜しており、東側と西側に尾根がある（第17図）。

茅荷沢遺跡では、新東名高速道路駿河湾沼津スマートインター チェンジ設置事業に伴うアクセス道路整備として、市道の拡幅および付け替えを行う工事範囲を調査対象とした。試掘坑（TP）は10mごとに1か所設定し、合計8か所調査することとした。まず、表土を重機で掘削した後、人力で掘削を行った。その結果、遺構は烟の造成で搅乱を受け、遺物も出土しなかった。

以下、各試掘坑の概要を述べる。

#### （1）試掘坑の概要

##### 試掘坑1（第18図）

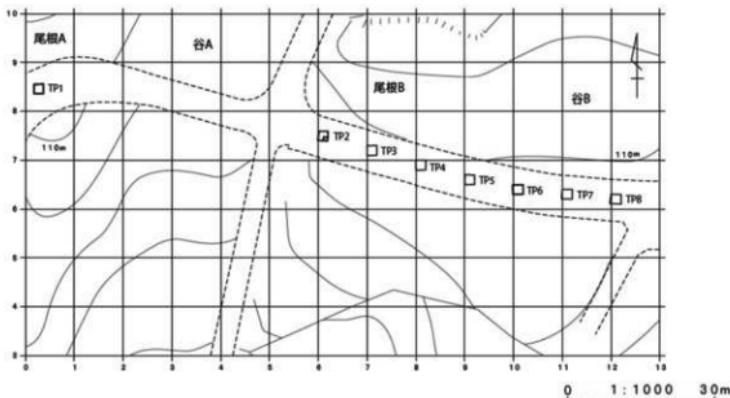
西側の尾根Aに設置した試掘坑で、標高が最も高い地点である。土層断面の観察により二セローム層まで削平を受けていることが明らかとなった。旧石器時代の遺構は検出されず、遺物も出土していない。

##### 試掘坑2（第18図）

尾根Bの西側に設置した試掘坑である。土層断面の観察により第Ⅲスコリア帯まで削平していることが明らかとなった。旧石器時代の遺構は検出されず、遺物も出土していない。なお、試掘坑1との間には深い谷が入っているため試掘坑を設定していない。



第16図 茅荷沢遺跡の土層柱状図



第17図 茅荷沢遺跡 調査区全体図

**試掘坑3（第18図）**

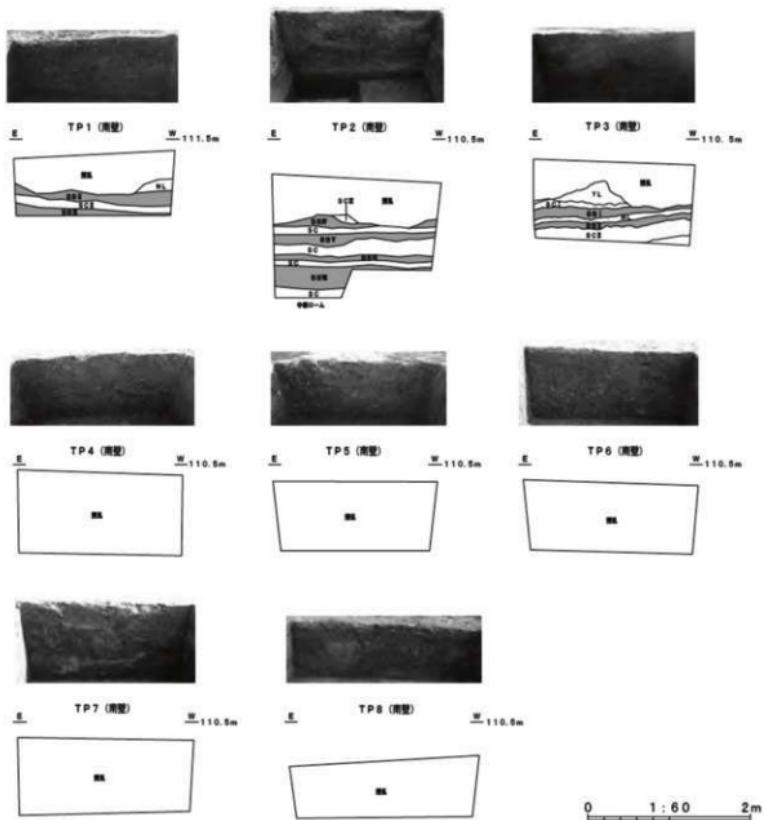
尾根Bの中央に設定した試掘坑で、休場層まで削平を受けている。旧石器時代や縄文時代の遺構は検出されず、遺物も出土していない。

**試掘坑4から試掘坑8（第18図）**

試掘坑4から試掘坑8は盛土が1m以上堆積しており、調査中に試掘坑の法面が崩壊する危険があつたため、人力掘削を中止した。

**(2)まとめ**

茅荷沢遺跡では、試掘坑1から試掘坑8までの土層断面を観察して検討した結果、尾根Aと尾根Bを削平して谷Aと谷Bを埋め、平坦な茶畠を造成していることが明らかとなった。この造成に伴い、遺構と遺物が失われ、遺跡が滅失したと推定される。



第18図 茅荷沢遺跡 試掘坑土層断面図

## 第V章 調查成果



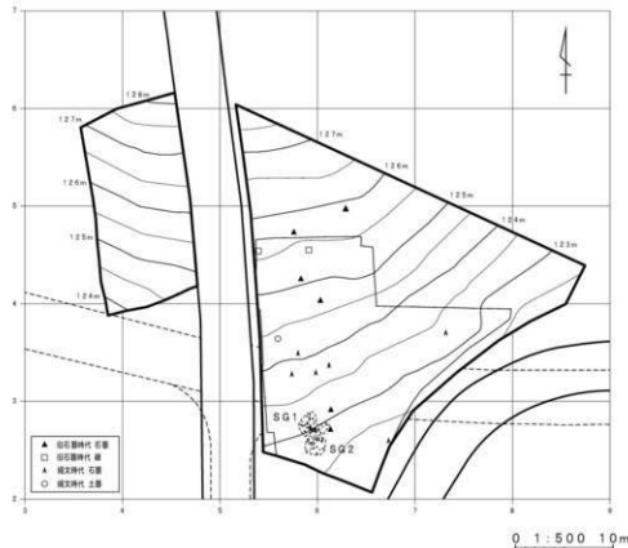
## 第V章 調査成果

### 第1節 銭神第II遺跡の性格

今回、調査が行われた2つの遺跡は、愛鷹火山の浸食により供給された土砂が火山の裾野に堆積して形成された火山麓扇状地に立地している。このうち、銭神第II遺跡では旧石器時代や縄文時代の遺構を検出し、これらに伴う遺物が出土したが、茗荷沢遺跡では茶畑の造成に伴う削平により遺跡が滅失していた。

銭神第II遺跡の調査地点は縄文時代早期の遺構と遺物を主体としている。なかでも富士黒土層を中心とする多量の礫が出土しており、その分布は2か所の集石として確認された。礫以外の石器や土器は出土量が少なく、断片的な内容となっている。周辺部の地形から推定すると、調査地点の南側に広がる平坦部に野営地の中心があり、土器や石器を使う場所として利用されていたと思われる。そして、礫に被熱の痕跡が認められたことから、礫を用いた調理が行われていたものと推定できる。

旧石器時代は細石刃が1点出土した。この細石刃は単独で出土しており、細石刃の生産に係わる細石刃核が出土していないことから、細石刃を使用した場所として理解される。



第19図 銭神第II遺跡 全体図

【主な引用・参考文献】

【報告書】

- 2010『八兵衛洞遺跡（第3次）』沼津市文化財調査報告書第99集 沼津市教育委員会  
2011『井出丸山遺跡発掘調査報告書』沼津市文化財調査報告書第100集 沼津市教育委員会  
2011『二ッ洞南遺跡・植出北II遺跡』沼津市文化財調査報告書第102集 沼津市教育委員会  
2007『向田A遺跡』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第178集  
中日本高速道路株式会社・財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所  
2009『秋葉林遺跡I』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第207集  
中日本高速道路株式会社・財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所  
2010『富士石遺跡I』静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第232集  
中日本高速道路株式会社・財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所  
2012『西洞遺跡II』静岡県埋蔵文化財センター調査報告第2集 中日本高速道路株式会社・財団法人静岡県埋蔵文化財センター  
2012『富士石遺跡II』静岡県埋蔵文化財センター調査報告第3集 中日本高速道路株式会社・財団法人静岡県埋蔵文化財センター  
2013『潤ヶ沢遺跡』（第1分冊・第2分冊）静岡県埋蔵文化財センター調査報告第30集  
中日本高速道路株式会社・財団法人静岡県埋蔵文化財センター  
1999『初音ヶ原遺跡』都市計画道路谷田幸原線初音ヶ原インターチェンジ建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 三島市教育委員会  
2001『上原遺跡』東京電力（株）桑原開閉所新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 静岡町教育委員会

【論文等】

- 池谷信之・富権孝志・麻柄一志 2010「第二章旧石器文化の編年と地域性 六東海・北陸地方」『講座日本の考古学Ⅰ 旧石器時代（上）』  
加藤晋平・鶴丸俊明 1980『図録 石器の基礎知識Ⅰ・Ⅱ先土器（上）・（下）』柏書房  
加藤晋平・鶴丸俊明 1991『図録 石器入門辞典 先土器』柏書房  
静岡県考古学会 1995『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年 予稿集』  
静岡県考古学会 1996『愛鷹・箱根山麓の旧石器時代編年 収録集』  
鈴木道之助 1981『図録 石器の基礎知識Ⅲ 縄文』柏書房  
誠訪問順 1988「相模野台地における石器群の変遷について」『神奈川考古』第24号 神奈川考古同人会  
高尾好之 2006「東海地方の編年」「旧石器時代の地域編年的研究」同成社  
高尾好之 2004「第二東名No.27-2地点（錢神）遺跡」「第10回石器文化研究交流会－発表要旨－」  
第10回石器文化研究交流会とうきょう実行委員会  
中村雄紀 2011「愛鷹山麓最古の石器群の諸問題－第Ⅶ黑色帶付近の石器群－」『石器文化研究』17号 石器文化研究会  
山本忠尚 2001『和英対照 日本考古学用語辞典』東京美術  
2001『旧石器考古学事典』（増補改訂）旧石器文化談話会編 学生社

# 写 真 図 版





錢神第II遺跡 調査区全景（西より）



錢神第II遺跡 調査区全景（東より）

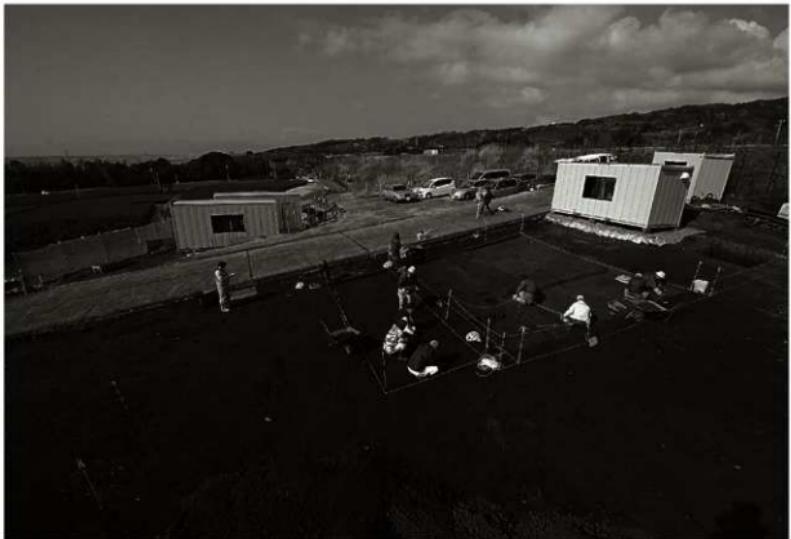
PL.2



錢神第II遺跡 調査区全景（南より）



錢神第II遺跡 表土除去作業



銭神第II遺跡 試掘範囲拡張調査



銭神第II遺跡 テストビットの掘削

PL.4



錢神第II遺跡 トレンチによる旧石器時代の調査



錢神第II遺跡 基本層序（南北セクションベルト）



銭神第II遺跡 基本層序 (TP16)



銭神第II遺跡 休場層検出状況



錢神第II遺跡 繩文時代早期遺物出土狀況



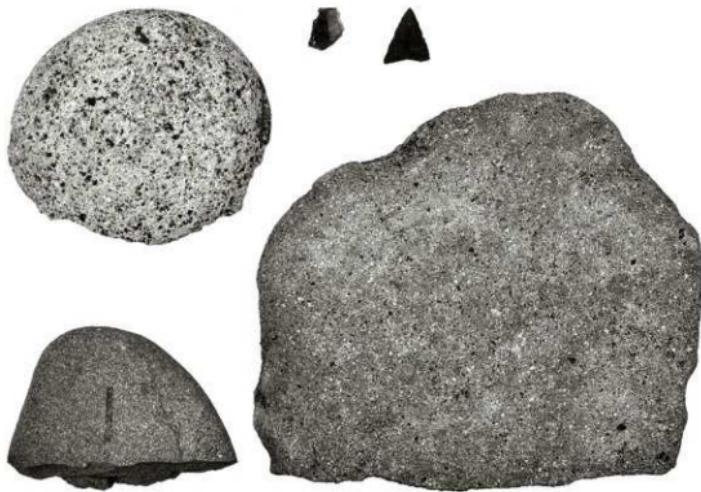
銭神第II遺跡 集石検出状況



銭神第II遺跡 旧石器時代出土石器（細石刃・使用痕のある剥片・剥片・碎片・石核）



錢神第II遺跡 繩文土器



錢神第II遺跡 繩文時代出土石器（石鎚・磨石・敲石・台石）



茗荷沢遺跡 調査区全景（南より）



茗荷沢遺跡 調査区全景（東より）

PL.10



茗荷沢遺跡 調査区全景（西より）



茗荷沢遺跡 調査区全景



茗荷沢遺跡 テストピット調査状況



茗荷沢遺跡 テストピット調査状況



茗荷沢遺跡 テストピット調査状況



茗荷沢遺跡 基本層序 (TP2)

## 報告書抄録

ふりがな	ぜにかみだいにいせき・みようがさわいせき						
書名	銭神第II遺跡・若荷沢遺跡						
副書名							
巻次							
シリーズ名	沼津市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第116集						
編著者名	前嶋秀彌 北佳奈子						
編集機関	沼津市教育委員会						
所在地	〒410-8601 静岡県沼津市御幸町16番1号 TEL 055-931-2500 (代)						
発行年月日	西暦2017年3月24日						
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
	市町村	遺跡番号	世界測地系				
銭神第II遺跡	沼津市 井出字銭神 1391-2他	22203	405	N 35° 09' 11" E 138° 48' 12"	2015.11.16 ~ 2016.3.18	1,560m <sup>2</sup>	駿河湾沼津 スマートインターチェンジ アクセス道路改良事業
				日本測地系			
				N 35° 09' 00" E 138° 40' 23"			
若荷沢遺跡	沼津市 井出字堀込 891-1他	22203	406	世界測地系 N35° 09' 03" E138° 47' 58"	2015.11.16 ~ 2016.3.18	612m <sup>2</sup>	スマートインターチェンジ アクセス道路改良事業
				日本測地系			
				N35° 09' 01" E138° 48' 09"			
所収遺跡名	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
銭神第II遺跡	集落址	旧石器時代		細石刃・石核・使用痕のある剥片・剥片・碎片			
		縄文時代	集石2基	縄文土器(早期)、石器・磨石・敲石・台石			
要約	<p>銭神第II遺跡は、愛鷹山南麓の標高125m付近に広がる、旧石器時代および縄文時代の複合遺跡である。遺構や遺物の分布状況から、旧石器時代は調査区の北側付近を中心に活動が行われ、縄文時代になると調査区の南側に活動拠点を移動していた様子がうかがえる。旧石器時代については、漸移層を主体とする細石刃が出土した。縄文時代については、集石2基とともに縄文時代早期の土器・石器・磨石・敲石・台石などが出土した。</p> <p>若荷沢遺跡は、茶畑の造成に削平を受けて滅失していた。</p>						

沼津市文化財調査報告書 第116集  
**錢神第II遺跡・茗荷沢遺跡**

平成29年3月17日 印刷  
平成29年3月24日 発行

編集／沼津市教育委員会

発行／沼津市教育委員会  
沼津市御幸町16番1号  
TEL 055-931-2500(代)

印刷／みどり美術印刷株式会社